



街頭で事故防止を呼びかけ

～夏の交通事故防止県民運動～

8月8日(水)、大槌北小福幸きらり商店街付近の国道交差点において、夏の交通事故防止県民運動の一つとして、碓川町長をはじめ、交通安全協会、交通指導隊など関係者約50名が街頭立哨活動を行いました。町長らは、「交通安全は町民の願い」をスローガンに、運転者の皆さんに交通事故防止を呼びかけました。あいさつの中で町長は、「大槌町では仮設生活による疲労や、公共交通機関が被災したことなどによる自動車の増加により、以前にも増して事故防止の意識が求められている。」と述べ、交通安全意識の向上を強く呼びかけました。

復興の思いを背負って歩く

～みちのく TRY～

残暑厳しい8月24日(金)、大槌町仮庁舎に、障害のある多くの人が集まりました。集まったのは宮古市田老町を出発して陸前高田市まで、岩手県内の被災地を歩いて回る「みちのく TRY」の参加者です。参加者およびそのサポーターは全国から集まり、自分の参加できる行程で、被災地を歩きます。日程や歩くルートは障害を持つ人が主体となって決め、また参加者の統率も行います。

立ち寄った市町村に、障害のある人の目線から見た復興に関する要望書を提出。要望書を受け取った町長は「まだまだ道のりは長く暑い日が続きそうだ。体と事故には十分気をつけて最後まで歩き続けてほしい。この要望書は今後の町の復興に役立てたい。」と参加者全員と握手を交わしました。



夏の暑さより熱く

～吉里吉里祭り開催～

8月25日(土)、26日(日)、吉里吉里地区に美しい笛の音や、勇ましい太鼓の音が響きわたりました。

震災後2度目となる吉里吉里祭りは、昨年より規模も大きく、参加者も多く大変な賑わいを見せました。参加者の男性の一人は「自分は生まれた時から祭りに参加しているようなものだ。開催できるのはうれしい。だけど規模も参加者も震災前の半分以下だ。これから少しでも早く震災前の賑わいに戻りたい。」と祭りに対する熱い思いを語ってくれました。



まちの話題あれこれ

気軽に何でも聞かせてほしい

～町長とお茶っこの会～

8月10日(金)、8月20日(月)、各仮設団地の集会所や談話室を会場に「町長とお茶っこの会」が開催されました。

これは、今後の大槌の復興についてだけでなく、町長に直接聞きたいこと、今抱えている不安など様々な話題についてお茶を飲みながら語り合うものです。

町民からは「今後自分の住んでいた地区はどうなるのか」、「もっと早く復興を進めて欲しい」、「災害公営住宅についてもっと詳しく知りたい」など、多くの意見、質問があげられました。

これからもお茶っこの会は各仮設団地で開催される予定です。町長にとっては町民の生の声を聞ける貴重な機会となり、町民にとっては、町長に聞きたいことを聞ける機会となりそうです。



世界に羽ばたく人材を

～KAI OTSUCHI 始動～

関西大学とIT(情報技術)に関する協定を結んだことによる事業が動き出しました。

8月19日(日)、大槌からスマートフォンのアプリケーション開発を行うプログラマーを育成する講座を一般社団法人「KAI OTSUCHI」が開催。町内から1期生となる6人が参加しました。この6人はプログラミングに関しては全くの素人で今回の講座を通して基礎の基礎から学習します。

「KAI OTSUCHI」の理事長を務める鷲見英利さんは「海外の人材が目玉されるようになってきたが、日本にもまだまだ優れた人材が眠っていることをこの事業を通して日本内外に発信したい。」と今回参加した6人に期待を膨らませていました。

